

## 医療と人権

科目責任者 竹内高明  
学年・学期 1学年・2学期

## I. 前文

現代の科学技術発展に基づく工業化社会において、健康影響をもたらすさまざまな事象が発生し、その責任の所在が法廷でも問われることとなった。その過程には、医師がさまざまな立場から関わっていた。また、健康被害を受けた人々の救済措置が制度化されるまでに、国・企業・学者・医療関係者・報道関係者と被害者自身の間で、さまざまな葛藤・対立あるいは協力の関係が生じた。本講義では、それぞれの事例について検証しつつ、現代の社会と医療現場での人権のあり方を考えていく。

## II. 担当教員

准教授 木村真三 放射線生態学  
特任教授 竹内高明 基本医学

## III. 一般学習目標

日本と世界の現代史において人間の産業活動がもたらした諸問題と医学との連関を知り、それらの問題の発生と解決にあたって医療・医学がどのような役割を果たしたかを学ぶことで、現在に続く医療と人権の関わりを考える。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 現代史の中で人権の問題に医療が深く関わった事例を理解し、その問題点を説明できる。
- 2) 現在の社会において、医療の見地から人権を守ることについて、具体的な事例を挙げて説明できる。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブラーニング
1	7	8	水	5	チヨルノブイリ原発事故40年・福島第1原発事故15年 (1)	木村真三 竹内高明	1, 2
2		15	水	5	チヨルノブイリ原発事故40年・福島第1原発事故15年 (2)	木村真三 竹内高明	1, 2
3	8	19	水	5	チヨルノブイリ原発事故40年・福島第1原発事故15年 (3)	木村真三 竹内高明	1, 2
4		26	水	5	森永ヒ素ミルク事件 (1)	池座雅之 (TV番組制作者)	1
5	9	2	水	5	森永ヒ素ミルク事件 (2)	木村真三 竹内高明	2
6		9	水	5	イタイイタイ病 (1)	畑明郎 (元大阪市立大学商学部教授)	1, 2
7		9	水	6	イタイイタイ病 (2)	堀口兵剛 (北里大学医学部教授)	1, 2

## VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

事前課題のレポート (40%), 事前課題の授業中の発表 (30%), 出席と授業への取り組み (30%) をあわせて総合的に評価する。

## Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

教科書は特に指定せず、事前または授業時に資料を配布する。また、必要に応じて参考図書を指示し、授業中に視聴覚資料を用いる。

## Ⅷ. 質問への対応方法

講義中・講義後に随時受け付けるほか、語学・人文教育部門室でも対応可。

部門室での質問の場合は、あらかじめ連絡を取ること。

竹内連絡先：t-take@dokkyomed.ac.jp

## Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

## X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題について授業中、全体及び個別にフィードバックを行う。

## XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習として、各回のテーマに関する予習を行い、A4の書式1枚の小レポートにまとめる（20～30分）。事後学習としては、各回の学びを整理し、次回の学習につなげる（20分）。

## XII. コアカリ記号・番号

PR-03-01-01, GE-04-02-02, SO-06-01-02